

## ◆ 博物館だより

◇今年度も資料の取扱いを実践的に学ぶ「博物館実習実践研修会」を開催しました。河内國平氏・河内晋平氏による日本刀研修（9月23日）、山内紀嗣氏による拓本研修（9月26日）と、佃一輝氏・佃梓央氏による煎茶研修（10月5日）を実施し、合わせて70名の方の参加を得ました。

◇2017年度ミュージアム講座「発掘最前線 考古学者は遺跡や古墳を発掘する」を3回にわたり関西大学千里山キャンパス尚文館にて開講し、141名の方から聴講の申込みをいただきました。

第1回 10月7日「縄文時代の遺跡を発掘する—九州の火山灰の下に埋まった遺跡—」

関西大学博物館学芸員 山下大輔

第2回 10月14日「古墳時代の遺跡を発掘する—記紀にみられる王宮をさがして—」

関西大学文学部准教授 井上主税

第3回 10月21日「飛鳥時代の古墳を発掘する—『日本書紀』を掘る—」

明日香村教育委員会文化財課調整員 関西大学文学部非常勤講師 西光慎治

◇11月12日から17日まで博物館実習展を開催しました。今年度は51名の実習生が「イノシシと共に生きる人々—篠山を舞台に—」、「なにわの観光 お伊勢参りから名所巡りへ」、「今日に生きる安倍晴明 古より語り継がれる姿」、「浮世絵—大阪の名所展—」の4班に分かれ、博物館学課程の集大成として展示を構成しました。会期中には539名の方に来場いただきました。



◇2017年度冬季テーマ展として、2018年1月15日から2月15日まで「関西大学と村野藤吾 設計図・建築写真・絵画」を、冬季ミニテーマ展として「本山コレクションからみる日本列島の石器とその石材」と『津田秀夫文庫』調査速報展～近世摂河の村々の支配と暮らし～を同時開催しました。期間中409名の方にご覧いただきました。



◇本年度下半期、上杉康彦氏より本山彦一遺愛のがまぐち1点、亘甫氏から細江逸記氏遺愛の英国風書斎机1台、校友遠山慶一氏から煎茶道具一式、煙草箱、明治期新聞雑誌、本居宣長の「てにをは紐鏡 再板」の合計13点、校友の刀匠河内國平氏から氏が作刀された短刀1本、さらに高倉春菜氏を介してご尊父故大石正雄氏が蒐集された琵琶湖竹生島湖底採集の弥生時代小型壺形土器1点を寄贈いただきました。今後、博物館で充分活用していきたいと考えています。

### ．．． 編集後記 ．．．

表紙は、今年の干支である戌にちなんで、本館所蔵の木彫りの「土佐闘犬」です。顔つきと立派なまわしは闘犬の雰囲気ですが、頭の大きさやしっぽの表現など全体的にはデフォルメされた愛嬌のある作品です。地元高知県で民芸品として作られたものです。

2018年度春季企画展「山本竟山の書と学問—湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク—」を4月1日から5月20日まで開催します。また、7月2日から8月5日まで夏季企画展として「神戸市立博物館選—地囃にみる世界と日本—」を開催します。

